沖縄特別シンポジウム in 東京

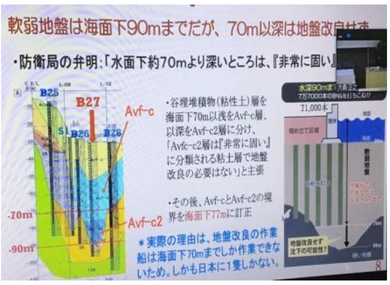
昨日 17 日午後、「復帰 50 年!の沖縄から、日本・アジア・世界の安全保障を考える」をテーマにシンポジウムが明治大駿河台キャンパスで開催された。普天間・辺野古問題を考える会と日本環境会議の共催による。

はじめに両会を代表して、宮本憲一先生が開会挨拶をした。先生の資料から―本土の皆さんに訴える　いま世界は第二次大戦後、初めて核世界戦争の危機にたっています。ウクライナの惨状を見る限り、東京のような過密都市や原発基地がミサイル戦争で破滅することは明らかです。この戦争の教訓に学べば、憲法 9 条に基づいて、今こそ不戦恒久平和の国是を世界にあきらかにすべきです。日本政府は全く反対にアメリカの中国敵視政策、台湾有事政策に従属して、軍拡に乗り出し、沖縄を中心とする南西諸島を日米の要塞化し、合同演習を始めています。沖縄県民は日本への復帰にあたり、二度と沖縄戦を再来しないために米軍基地の撤去と反戦平和、基本的人権、自治を求め、この政府の動向に反対です。

今日は沖縄復帰 50 年にあたり、今の沖縄の現状と県民の心を日本全国に伝える集会にしたいと思います。

玉城デニー沖縄県知事の特別ビデオ・メッセージ、第 I 部北上田毅(土木技術者)「辺野古の軟弱地盤問題」、桜井国俊「急速に進む琉球弧の軍事要塞化をどう食い止めるか!」、島洋子(琉球新報編集長)「知事選後の沖縄の政治」、澤地久枝(作家)「本土からの応答―沖縄への思い」の基調講演へと続いた。

休憩をはさんで、第Ⅱ部のパネル・ディスカッションが寺西俊一(日本環境会議理事長)をモデレーターに行われた。山城博治(ノーモア沖縄戦 命どぅ宝の会共同代表)ビデオ・メッセージに続き、岡本厚(元「世界」編集長)「「台湾有事」を引き起こさせない・沖縄対話プロジェクトについて」、白藤博行(専修大教授)「辺野古新基地建設の是非をめぐる沖縄県と国の争訟をめぐって」、西谷修(東京外国大名誉教授)「アメリカの世界戦略と沖縄」の報告のあと、登壇者による質疑があった。



残念ながら東京に行けなかったのでズームで視聴したが、戦争が現実味を帯びる中で、復帰 50 年の沖縄をめぐる厳しい状況を再確認できた。沖縄戦の悲劇が繰り返されるのでないか、沖縄の危機感が伝わってくる集会であった。冒頭に紹介した宮本先生のとりわけ「本土の皆さんに訴える」というメッセージが心にひびいた。

それと辺野古の軟弱地盤問題の報告も、夢洲 IR 予定地の軟弱地盤を考えるうえで参考になった。住民訴訟にも活用していきたい。

(2022 年 12 月 18 日)